

資料9 報告書（骨子案）

行財政研究会のこれまでの議論のまとめ

行財政研究会等の議論を踏まえ、これまでの強みを活かしつつ希望ある岩手県を実現するため、人口減少対策に真正面から向き合い、子ども子育て環境の充実など安心・安全に暮らせる基盤の強化、新時代のGX、DXの推進など重点テーマを推進する施策を展開するとともに、そのために必要となる持続可能な行財政基盤の構築の方向性を検討していく必要がある。

将来世代に向けて実現すべき「希望ある岩手」の姿

①人口減少対策強化のため、子ども子育て環境の充実など安心・安全に暮らせる基盤を構築

今後も続く人口減少に対して、安心・安全に子育てできる環境、若者・女性が活躍できる環境の構築をさらに推進していく必要がある。その際、岩手県の強みを活かして、より質の高い医療の提供やより良い学びの場の創造に向けて中長期的に取り組んでいくことが重要。

- ・医療従事者の働き方改革を推進しつつ、県民により質の高い医療を提供できる県立病院を実現
医療従事者の働き方改革を推進しつつ、地域医療を守りながら県民へより質の高い医療を提供する体制や県立病院を構築していく。そのために必要となる中長期的な視点からの住民目線での医療圏の在り方、住民サービスの向上に必要となる施策を展開していく。
- ・将来にわたってより良い学びの場の創造の実現
県立学校における働き方改革を推進しつつ、将来にわたって子どもたちの選択の幅を確保し・学びの質の向上を実現していく。そのために必要となる中長期的な視点も踏まえ、学びの質の向上に資する施策の展開、学びの場の在り方を検討していく必要。

②本県の高いポテンシャルを活かしたグリーン社会の実現、DX推進による豊かで活力あふれる岩手県の実現

→これらの施策を含め県民計画(2019～2028)の着実な推進により、新時代のGXやDXに対応した、真に安心・安全に暮らせる生活基盤を構築し、一人ひとりの県民がより幸福を感じられる岩手県を創造。

持続可能で健全な行財政基盤の構築

①希望ある岩手の実現のために必要となる安定的な財源の確保の在り方について

- ・国の制度や国庫補助金・地方交付税等の財政支援の在り方について、国に対して全国的な議論を実施。
- ・併せて、県独自の安定的な財源の確保に向けて、新たな特定目的基金の創設等について検討。

②行財政構造の在り方について

- ・持続可能で健全な財政基盤の構築に向けて岩手県の中長期的な行財政構造の分析等を通じて、あるべき歳出水準を検討。
- ・ふるさと納税等を含め、あらゆる選択肢を排除せず、実現可能な歳入確保策について検討。
- ・行財政基盤の構築のための指針となる財政目標を設定し、毎年度の行財政運営においてPDCAサイクルを実施。

行財政研究会の報告書に係る骨子案について

持続可能で希望ある岩手県を実現するため、岩手県の中長期的な行財政構造の課題の分析等を通じて、岩手県におけるグランドデザイン等について有識者等に議論をいただき、総務部報告書としてとりまとめる骨子案を以下のとおり示すもの。

1. はじめに

2. 中長期的な行財政構造の課題の分析等

- (1) 今後の人口動態について～人口減少時代に適合した施策の充実や基盤の構築の必要性～
- (2) 岩手県行財政運営の現状分析と中長期的な課題の抽出
 - ① 他都道府県等の比較を通じた歳入歳出面におけるこれまでの本県の特徴
 - ② 東日本大震災への財政対応に係る総括等

3. 希望ある岩手を実現するための重点テーマ等の推進の方向性について

- (1) 子ども子育て環境の充実など安心・安全に暮らせる基盤の構築
 - ・人口減少対策の強化
 - ・県立病院の更なる充実
 - ・県立高校における学びの質の向上
- (2) 本県の高いポテンシャルを活かしたグリーン社会の実現、DX推進による豊かで活力あふれる岩手県の実現

4. 行財政運営にあたって財政目標等の設定

- (1) 令和4年度当初予算及び中期財政見通しの状況について
- (2) 新たな財政目標の設定 ※財政原則の確認含む

5. 行財政基盤構築に向けた取組の方向性について

- (1) 行財政改革の方策について
 - ① 公共施設等の適正管理に係る推進方策
 - ② 定年延長等を踏まえた定員管理のあり方
 - ③ その他歳出の水準の検討の方向性
 - ④ あらゆる歳入確保策
- (2) 安定的な財源確保等に向けて
 - ① 地方財政措置等の拡充、国制度の見直しの必要性
 - ② 更なる施策の充実のための財源確保の検討
- (3) 行財政改革の着実な推進に向けた体制の構築について

6. さいごに